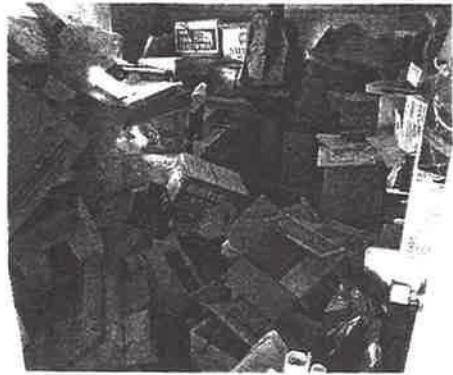


# 琉球新報



え、亡くなつた後の住宅で  
1人暮らしの高齢者が増

天井付近まで物が積み上がり、足の踏み場もない部屋。10月、北海道知地方

## 遺品整理「相談して」

### 片付け業者 年末に依頼増

遺品やごみを片付ける業者の関心が高まつてゐる。家族が二の足を踏むほど大量の品が残されるケースもあり、清掃の専門家を育成する一般社団法人「事件現場特殊清掃センター」（北海道千歳市）は「年末にかけて依頼が増える。悩みを抱え込まず、相談してほしい」と呼び掛ける。

今年の9月中旬を最後に、壁に掛けたカレンダ

止まつていた。北海道空知地方にある築35年の2階建て住宅。高齢の夫婦が暮らしていたが、夫が認知症のため介護施設に入所し、妻が家に残つた。その後、妻も体調を崩して入院、帰宅することなく亡くなつた。40代の娘が無人になつた家の掃除を始めたが、いくつかの部屋は天井近くまで物が積み上がり、足の踏み場もなかつた。作業ははかどらず、北海道滝川市の遺品整理業者「虹の架け橋」が依頼を受けた。

統括責任者の佐藤勇大さん（32）ら作業員5人が4日かけて清掃。「写真は全て

（日刊）

2016年（平成28年）

12月31日土曜日  
〔旧12月3日・友引〕

捨ててほし」との依頼だつたが、書道作品を前に誇らしげな表情を見せる夫の写真を残した。娘は「お願ひして本当に良かった」と涙を浮かべて喜んだとい

虹の架け橋は、佐藤さん

が昨年10月、運送会社を営む母裕美さん（55）と立ち上げた。祖父宅の遺品整理を

した約10年前、家族だけでの作業に限界を感じたことがきっかけだった。「ごみに思える物にも思い出が詰まつていて、家族では作業が進みにくい。部外者が片付けることで気持ちを整理する分岐点にしてもらえば」と佐藤さん。

事件現場特殊清掃センタ

ーは2013年に設立。虹の架け橋のような全国の清掃業者が300社ほど登録しており、同センターが依頼を受けて最寄りの業者を紹介する。問い合わせは同センターエル（42）0622。